

## 日本スポーツ振興センターのスポーツ施設の 管理・運營業務の評価（案）の概要

### 1. 業務内容及び契約期間

業務内容：日本スポーツ振興センター（以下「N A A S H」）のスポーツ施設（国立霞ヶ丘競技場（以下「霞ヶ丘」）、国立代々木競技場（以下「代々木」）、国立スポーツ科学センター・ナショナルトレーニングセンター（以下「J I S S ・ N T C」）の管理・運營業務（運營業務、保守管理業務、警備業務、清掃業務、環境衛生管理等業務）

契約期間：平成 21 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの 3 年間

### 2. 実施状況に関する評価

各業務の実施状況において、設定された確保すべき質は以下のとおりである。

- ア 業務仕様書（提案に基づき変更された内容を含む。）及び入札時の企画書の内容に従って業務を履行すること。
- イ 業務仕様書に示された業務内容を行わなかったことに起因する業務の不備により、施設の重大な支障（停電、断水、空調停止など）が発生しないこと。（定量的な指標：0 回）
- ウ 各年度に 2 回 N A S S H が実施するアンケートによる満足度調査において、N A A S H が指定する項目に対して、平均 80%以上の回答者から「満足」、「やや満足」の回答を得ること。

アについては、仕様書及び入札時の企画書の内容に従った業務の遂行がなされた。

イについては、業務仕様書に示された業務内容を行わなかったことに起因する業務の不備による停電、断水、空調停止等の重大な支障は発生しなかった。

ウについては、一部の施設で「施設の清掃」に係る項目で目標を下回る結果が見受けられたが、「受付スタッフの対応」、「指導員の対応」、「電話予約時の対応」についてはすべて良好な結果が得られている。また、目標を下回った部分については作業手順等の見直しが行われ、改善されている。

以上から、設定された確保すべき水準については概ね達成できたものと評価できる。さらに、利用者の利便向上のため、貸出備品の追加や宅配便取次業務の実施など各事業者による創意工夫も見受けられる。

### 3. 実施経費に関する評価

実施経費と、従来の実施に要した経費の比較は以下のとおりである。

単位：千円

区 分	従来の実施 経費 A (※)	契約に基づく支払額		従来の実施経費との差		
		21 年度 B	22 年度 C	B-A	C-A	年間あた り
霞ヶ丘	260,976	301,112	301,259	40,136	40,283	40,209
代々木	167,081	177,806	181,784	10,725	14,703	12,714
J I S S ・ N T C	410,820	621,866	622,932	211,046	212,112	211,579

(※) 比較対象年度は、霞ヶ丘→19年度、代々木→17年度、J I S S ・ N T C→20年度

霞ヶ丘においては年間あたり約 4,021 万円(15.4%)、代々木においては約 1,271 万円(7.6%)、J I S S ・ N T Cにおいては約 212 百万円(51.6%)の増加となっている。

実施経費の増加の理由としては、これまで予定価格の積算に用いていた業務単価のうち市場の実態に合わないものがあつたため、業務単価の見直しを行ったことや、当該施設の業務を実施することが、民間事業者にとっても大きな実績となり他の関連業務の受注等に影響することから、これまで過度の価格競争が行われていたことが考えられる。

### 4. 今後の事業について

次期事業においても、引き続き民間競争入札を実施することが適当と考えられる。

ただし、さらなる経費の増大を招かないためにも、次期民間競争入札の実施にあたっては競争性の確保に十分留意する必要があり、実施要項に本実施状況の内容を十分に情報開示するとともに、企画提案書提出までの期間の延長や参入が想定される業界等へのアピールなど民間事業者が参入しやすくなるような方策を検討する必要がある。

以上